

# 令和8年度 学校「学ぶ力」育成プログラム

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：24506

「学ぶ力」	
実態	成果
	<p>◇札幌市共通指標では、「新しく学んだことを、他の学習や生活の場面で使おうとしている」の項目で、肯定的な回答の割合が85%近くとなっている。授業づくりや自治的な活動を組む準備において、AARサイクルの視点や子どもの学びをつなぐ意識を重点として取り組んだことは、「学びの活用の意識」に対して、一定の成果を得たと考える。だが、考えの深まりや新しい気付きに結びついていないことが課題である。</p>
	<p>◇札幌市共通指標では、「授業中、それまでに学習した内容とつなげて考えることで、考えが深まったり、新しい考えに気が付いたりした」の項目で、肯定的な意見が80%あるものの、他の項目より低い傾向が見られる。教科学習での学びや、活動での学びを他の活動につなげて考えることに課題が見られる。</p>
<p>「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題</p>	
<p>◇札幌市共通指標では、「友だちのよいところを見つけることができる」の項目で、肯定的な意見が92%を上回るが、「授業中、自分や友達よさを見付けることができる」の項目では、肯定的な意見が87%と数値が落ちる。他者への承認はできるが、授業に関して自己の承認を自信をもって行うことに課題が見受けられる。相互承認の感度を高めていくよう、様々な活動を通して教師の関わりを意図的に行ったり、他者からの承認場面を増やしたりしていく必要がある。</p>	

## 「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力 学びをつなぐ姿～子どもの学びを深めるために～

取組	課題探究的な学習の推進 に向けて	自治的な活動の充実 に向けて
	<p>(1) 「AARサイクル」・「各教科の特性を生かした学びをつなぐ手立て」を意識した授業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもが単元全体を見通し知識技能を課題解決に活用する場の設定</li> </ul> <p>(2) 指導と評価の一体化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの振り返りをもとにした授業改善やリフレクションでの評価</li> </ul>	<p>①学級活動や行事、児童委員会・クラブ活動での話し合い活動を充実させ、子どもが「自分の意見が反映された」「活動を生み出した・集団を動かした」と感じられる活動の推進。</p> <p>②縦割り活動や全校遊び活動を通して、仲間と創り出すことのよさや楽しさを実感できる活動の場を設定する。</p> <p>③さっぽろっ子サミットと関連を図った、「キョーエイサミット（児童集会）」の推進。</p>
<p>「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICTの活用について</p>		
<p>◇主に(1)(2)①について、複数のツールの中から適当なものを、児童自ら選択し活用できるような環境を整備するとともに、各ツールの利点などの特色について、授業や話し合い活動での活用を通して指導の機会を設ける。</p> <p>◇主に(2)①②③について、Googleformで各自の意見を集約したり、可視化したりし、一人一人の意見や考えが反映するシステムを活用する。また、Classroomで各活動チームの報告・連絡・相談をスムーズに行わせ、子ども同士の声をつながられるようにする。</p>		

<本プログラムの実行に向けて>

